

平成22年度 教員養成、採用、研修に関する各学科、各課程の取り組み

国文学科教員採用試験対策勉強会

文学部国際言語・文化学科

准教授 高木伸幸

国文学科では、教員採用試験を目指す学生対象の勉強会を始めました。中学・高校国語の教科専門試験に対応できる学力を身につけることが目的です。教職担当の高木が講師を勤めています。

受講者はまずその日に取り上げた試験問題（大分県教員採用試験過去問題等）を解き、次いで高木の解説を参考にしながら答案の自己添削をし、一回60分から90分間で問題を解く読解力、記述力を高めていこうという内容です。

現4年生が3年生だった平成21年11月にスタートし、当初は隔週開講で、22年4月以降は毎週開講となり、採用試験本番の7月中旬までに計24回の勉強会を開きました。毎回10名程度の参加者があり、教員を目指す学生の熱意が強く感じられます。

今後もこの勉強会に多くの学生が参加してくれることを期待しています。

史学・文化財学科の取り組み

文学部史学・文化財学科

准教授 松森武嗣

「教員採用対策勉強会」は、顧問教員の指導を受けながらも、「主体性」「連携」「継続」の基本方針のもとで、中学・高校教員を目指している史学・文化財学科所属の有意な学生が参加し運営している勉強会です。

創立2年目である平成22年度の活動状況としては、毎月開催の月例会はもとより、前期では「基礎力養成」として、全員で日本史と世界史の各『30日完成問題集』を、後期では「議論力及び応用力養成」として、志望している校種・科目別ごとに3グループに分かれて過去問を解きました。また、今年度は別府大学卒業生現職教員講演会として2名の教員（明豊高校後藤彰朗と別府市立中部中学校大野亜希子の両先生）に、採用までの道程や教員の仕事などのお話を頂き、さらにファシリテーション講演会として㈱ライフコンサル大分の福嶋崇先生に、議論の具体的な進め方をレクチャーしていただきました。その他、年2回の歴史能力検定試験の受検も実施しています。

発酵食品学科における教員養成の取り組み

食物栄養科学部発酵食品学科

助 教 林 毅

発酵食品学科は理系学科であり、専門技術の習得や研究に教育の重点を置いているため、教員養成に対しては特筆すべき取り組みは行っていない。しかしながら、現3、4年生の教職課程履修者は教職の学習に対しては積極的で、有志で結成されている模擬授業の会に全員が参加して、実践的に教育法について学んでいる。

この活動の中で、平成22年度は、3、4年生の縦のつながりが非常にうまく機能していると感じた。すなわち、3年生は頻繁に4年生に授業方法について教えを仰ぎ、一方で4年生は3年生に教えながら知らず知らずのうちに自身も教育経験を踏んでいる、いわゆる学生間での良い教員養成の取り組みがなされていると感じた。

平成22年度は、一人の4年生が東京都の公立学校教員採用候補者選考の理科（中学校・高等学校共通）の、受験倍率3.3倍の一次試験をパスした。これはもちろん本人の努力のたまものであるが、もしかしたら後輩への指導経験が一助になったのかもしれない。

別府市立浜脇中学校学習支援ボランティア

文学部教職課程

准教授 瀬戸口 昌也

教職課程では、別府市立浜脇中学校からの要請により、浜脇中学の生徒に対して定期テスト前の数日間、第4期模擬授業の会の委員を中心に教職課程を履修している大学生数名で、放課後学習の支援を行った。平成22年度における期日とそのボランティア数を挙げれば、以下の通りとなる。

平成22年6月24日（木）：3名、25日（金）：3名、26日（土）：4名

平成22年11月25日（木）：3名

平成23年2月21日（月）：3名、22日（火）：3名、23日（水）：3名

